

## 人工股関節全置換術（Total Hip Arthroplasty, THA）

### ～骨頭径の進歩～

市立豊中病院 リハビリテーション科 李 勝博

変形性関節症や関節リウマチなどの病気は、関節の表面を覆っているクッションである関節軟骨がすり減ることによって関節に痛みが生じてきます。関節軟骨は一度消失すると再生しない組織であり、痛みを取るための治療は手術以外にありません。そのように股関節の痛みを有する患者さんの関節を人工関節に置換する手術を人工股関節全置換術と呼び、この手術によって患者さんの痛みは楽になり、またしっかり歩けるようになり、格段に ADL が改善されます。日本全国でみますと 2013 年の一年間に人工股関節全置換術は約 53500 例の手術が行われています。

人工股関節は主に 4 つのパーツからできています。その 4 つとは骨盤側の臼蓋コンポーネントとして、チタン合金のメタルシェルとその内張をなすライナー（高分子ポリエチレンやセラミックでできている）、大腿骨コンポーネントとしてチタン合金のステムと骨頭（金属やセラミックでできている）です。

現在の人工股関節全置換術の礎となっているのは 1960 年代に Dr. Charnley によって行われた low friction arthroplasty というもので、当時の骨頭径は 22mm でした。その後様々な技術の進歩に伴って、骨頭径は 26mm になり、28mm、32mm と大きくなり、ここ数年は普通の日本人女性でも 36mm の骨頭が使えるようになりました。では、大きい骨頭を使うことができるかどうかとどんなメリットがあるのでしょうか。人工股関節全置換術後の合併症の一つに脱臼があります。脱臼を起こすと非常に強い痛みが出ますし、全く歩行できなくなるので、救急車で搬入されてくる方がほとんどです。この大変な合併症である脱臼のリスクを大きな骨頭を使うことによって減らすことができると言われています。諸家の報告では、28mm 骨頭使用例で 2.5～10% だった脱臼率が、36mm の骨頭を使用することで脱臼率は 0.2～0.8% に低下しています。またそれによって今まで禁止されていた動作も少しずつ可能になってきています。

このようなすぐれた手術でも受ける側の患者さんは、最初手術自体に恐怖心があり、受けることに躊躇される方のほうが多いです。しかし、実際この手術（所要時間は 1～1.5 時間、入院期間は 3～4 週間）を受けた患者さんに退院後、感想を聞いてみると、ほとんどの方がもっと早く手術を受ければよかったとおっしゃってくださいます。股関節の痛みでお困りの方がいらっしゃれば、ぜひ当院整形外科にご紹介ください。